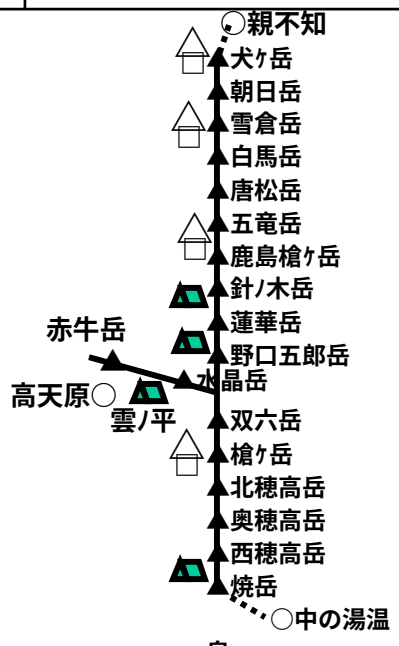
8月度　山行報告書

報告者	亀山	参加メンバー	L　亀山　誠
報告日	8／24		

山　域	北アルプス	山行日	05年　8月6－14日
山　名	親不知～焼岳		
山行目的	北アルプスの夏山を楽しむ		

配布先
集会：10
山行L：1
原紙：集会担当者



コースタイム（天候：天気図記号）

8/6（晴れ）
親不知4:30
栂海山荘14:10
8/7（曇り→雨）
栂海山荘4:30
雪倉非難小屋14:00
8/8（曇り）
雪倉非難小屋4:45
キレット小屋17:00
8/9（晴れ）
キレット小屋4:40
針ノ木峠14:40
8/10（雨）
針ノ木峠5:30
烏帽子小屋テン場15:00
8/11（晴れ）
烏帽子小屋テン場4:30
雲ノ平17:20
8/12（雨）
雲ノ平8:50
槍ヶ岳山荘15:20
8/13（曇り）
槍ヶ岳山荘5:15
西穂山荘テン場16:00
8/14（曇り→晴れ）
西穂山荘テン場5:00
焼岳9:30
中の湯温泉11:50

〈山行報告〉　８／６（土）親不知海水浴場の休憩所の片隅で潮の香を含んだ海風に朝を覚える。小屋の持ち主さんにお礼を言ったあと歩きだす。　栂海新道の道標を右手に見ながらいよいよ入山である。　樹林帯のくねくねとした登山道を歩く。　途中舗装の林道を横切る。　地元の人達はショートカットして林道から入山するらしい。　アブとブヨの歓迎を受けるが嬉しくはない。　白鳥山避難小屋横で一本取る。　１０人程の登山者（下山者）と出会い挨拶を交わす。　これより犬ケ岳手前の栂海山荘（避難小屋）まで歩き、時間は早目だったがかなり疲労しており、本日の行動を終えることとする。　夕方から栂海新道開設の首謀者とその関係者達の懇親会が催され、私達登山者へもお誘いの声がかかり少しの時間ではあったが仲間に加わり、３０年前の取り組んだ頃の逸話を聞かされ頭が下がる思いであった。　隣室の宴会を子守歌に心地よく眠りにつく。

８／７（日）α米で朝食をすませ出発する。　犬ケ岳より北方へ目をやると山並みは日本海へと続いている。　水の豊富な黒岩平にて一本取り水を補給する。　残雪とお花畑が素晴しい。　朝日岳では下の分岐まで尾根道をダイレクトに下る。　今までとは一変して朝日岳方面へ向かう登山者がの多いこと！驚きである。　雪倉岳は登れど登れど頂上が見えてこず、なかなかつらい。　１４時、雪倉岳の下りで雨に合い、避難小屋へ逃げ込みそのまま行動を終える。　この小屋へ９名の登山者が泊まるが、時間も早かった為、山の話で和やかに過ごす。　新潟・神奈川・金沢・大阪・愛知と様々な所から来ており、各地の山の話が飛び交う。

８／８（月）別れを惜しみながらもそれぞれへ出発する。　雪渓を横切り三国境への大登りはつらい。　人気者の白馬岳頂上は大勢の人で賑やかである。　村営小屋にて水を補給しテント場の脇を通り縦走路へ出て、先を急ぐ。天候はまずま

【鹿島槍ヶ岳より爺ヶ岳】

確認（リーダー）

作成（報告者）
亀
05/08/24
山

8月度　山行報告書

報告者	亀山	参加メンバー	L　亀山 誠
報告日	8／24		
山 域	北アルプス	山行日	05年 8月6日－14日
山 名	親不知～焼岳		
山行目的	北アルプスの夏山を楽しむ	コースタイム（天候：天気図記号）	

配布先
集会：10
山行L：1
原紙：集会担当者

〈山行報告〉　ずであるが遠くは雲で遮られ展望はきかない。　天狗の小屋は雪渓のそばに静かにあり、表のテーブルにて一本取り疲労回復を図る。　鑓温泉から沢山の登山者が登ってくるのを左下に見ながら歩く。　不帰の嶮では以前（33年前）冬山合宿で歩いた時の極寒の中の厳しい登攀を思い出し、－３０℃の中、よくこんな急峻な壁を登ったな～と複雑な心境で攀じる。　唐松岳にて休憩する。　展望は相変わらずきかない。　八方尾根からの入山者で賑わう唐松山荘前を通過する。　五竜岳を越えクサリ場のアップダウンを慎重に繰り返しながらキレット小屋に着く。　ここにはテント場がない為、小屋泊りとする。夕食後遠方からの登山者達と山談義に花が咲く。　小屋はすいており爆睡。

８／９（火）重荷を背負った先行の学生５人パーティーはクサリ場通過に慎重である。その後をゆっくり歩くと、しばらくして進路をゆずってくれほっとする。　彼等は遠見尾根より入り槍ケ岳まで歩くとのこと。　右手にモルゲンロートの剣岳の雄姿に感動しながら鹿島槍ケ岳への大登りを快適に登る。　頂上では冷池方面からの登頂者と挨拶を交わし、久しぶりの好天で360度の眺望である。　北は白馬岳から南は遥か槍穂まで望め疲れを忘れさせてくれる一瞬である。　冷池山荘を通過し赤岩尾根分岐へ来る頃、ヘリコプタが山荘への荷揚げを開始した様である。　柏原新道からの登山者も好展望に表情が明るく、挨拶や会話を交わす。　種池山荘では生ビールを片手にくつろぐ人を羨望の眼差しとなるが、ぐっと我慢し先を急ぐ。　新越山荘前にて一本取る。　山荘はハイテクが進んでいる様で学生パーティーの感心している会話が聞こえて来る。　右手に立山連峰と右下に黒部４のダム湖を眺めながらお花畑やハイマツ帯を歩く。　鳴沢岳のではコマクサの群生や雷鳥のファミリーさんに出合いおもわずシャッターを切る。　針ノ木岳頂上は小屋から近いせいかけっこう人が多い。　小休止後、針ノ木山荘テント場へ下り、杖とナナカマドを利用しツエルトを設営する。　山荘前のベンチにて生ビールで一日の疲れを癒す。

８／１０（水）起床時刻頃になると、雨粒が落ちて来たので慌ててツエルトを撤収し小屋へ逃げ込む。　自炊用テーブルにてα米で朝食とし出発の準備は整うが、雨は本降りであり少し様子をみる。　５時半、雨中蓮華岳へ向け歩きだす。　上部は砂礫地帯となっておりコマクサの大群生である。　まもなく二人パーティーに追いつき蓮華岳の頂上ではツーショットの写真撮影をサービスする。　クサリ場を慎重に下降する。　空は真っ黒ですぐ頭上で雷鳴が轟き心細い中、北葛岳を登る。　すると、二人の登山者が落雷を避けハイマツの陰に休憩しており、私とは逆に針ノ木峠へ向う方達だった。　左右にコマクサを観ながら歩くと七倉岳である。少し下降し船窪小屋に立ち寄り小休止させてもらう。　こじんまりとした静かな山小屋で好感がもてる。　熱い緑茶を頂き、雨に濡れ冷えた体が内面から温まりとてもありがたい。『烏帽子小屋までは思いのほか時間を要しますよ』とアドバイスを受ける。

〈フリースへ　【鹿島槍ヶ岳】

確認（リーダー）

作成
亀 05/08/24 山

8月度　山行報告書

報告者	亀山	参加メンバー	L　亀山 誠
報告日	8／24		
山 域	北アルプス	山行日	05年 8月6日－14日
山 名	親不知～焼岳		
山行目的	北アルプスの夏山を楽しむ	コースタイム（天候：天気図記号）	

配布先
集会：10
山行L：1
原紙：集会担当者

〈山行報告〉　下のテント場を横切り、風化の著しい不動沢上部（足元）の異様な地形を左手に、クサリ場・梯子・フィックスロープ等頻繁に出現し気を抜けない。　船窪乗越を過ぎ、船窪岳への急登は辛い。　途中、愛知のＴ社親子と出会い、挨拶を交わし元気が出る。　不動岳とコマクサの咲く南沢岳を経て、烏帽子小屋に着く。　テント場の中央にほどよくナナカマドの木があり、それを利用してツエルトを設営する。　雨は上がりお日様が元気であり、シュラフカバーやソックス等、濡れた物を干す。　テント場と小屋との間にあるヘリポートへはヘリコプターの発着が頻繁に行われている。　夕飯を済ませ夕暮には横になり明日に備える。

８／１１（木）簡単な朝食を済ませ、朝露に濡れたツエルトを撤収し重荷の学生パーティーに続いて出発する。　三ッ岳の登りで道を譲ってもらう。　なだらかな野口五郎岳を通り水晶小屋にて右折し水晶岳に着く。　これより赤牛岳を往復し温泉沢の頭より高天原へ下る。　温泉は温泉沢の河原の両岸にあり、露天風呂である。　衣類を脱ぎ捨てそのまま飛び込む。　他に４人程の方が入っており、北アルプス最奥の温泉は静寂であった。　再び汗臭い衣類を着て高天原山荘で小休止後、雲の平まで上がり、テント場へツエルトを設営に掛かるが、その頃から雨が降り出す。　雷雨である。　備え付けのツルハシで側溝を掘り水害に備えたお陰で難は最小限に済んだ。　しかし、たいして睡眠を取れず朝を迎える。

８／１２（金）朝方まで雨がやまず出遅れるが元気に歩きだす。　祖父岳を南へ巻くと雪渓を右手に見ながら進む。　黒部源流へ下ると、川は増水していたがフィックスロープを軽く掴み辛うじて飛び石づたいに渉る。　少し急登を登り三俣山荘前にて一本とる。　時折小雨の降る巻き道を、登山者と挨拶を交わしながら淡々と歩く。　景色は霧のため見えない。　双六小屋へ着くと、そこは人でごった返しており、１２：１５、槍まで行けそうなのですぐに歩きだす。　霧は更に濃く視界はない。　４パーティーほどの学生さん達とすれ違う。　中高年が圧倒的に多い為、若手を見ると嬉しくなりホッとする。　７日目にして初めて私より速いペースで歩く人に出会う。　長身の外国人カップルだった。　道を譲り辛うじて付いて行けたが速い。　彼女はサッカーをやっていると答え、なるほどと納得する。　１５：２０に槍ケ岳山荘に着き、ツエルトだし好天の兆しもない為、小屋泊まりと決める。　外国人は金銭に余裕が無さそうで小屋泊まりをためらっていたようだったので少しばかりカンパする。　濡れ物を乾燥室に吊るし休憩室にてくつろぐ。　部屋にはいがいに大型テレビが設置されてあった。　高校野球が映し出されており、下界にいるかと錯覚しそうだった。　自炊室にて数人の人と会話しながらゆっくりと夕食をとる。　ベッドはがらがらに空いており昨夜眠れなかったせいか布団と仲良くなる。

８／１３（土）相変わらず天候は良くない。　α米と緑茶で朝食とし、穂高を目指し出発する。　途中、南岳小屋にて

〈フリース〉　[雲/平]

確認（リーダー）

作成（報告者）
亀 05/08/24 山

8月度　山行報告書

報告者	亀山	参加メンバー	L　亀山 誠		
報告日	8／24				
山 域	北アルプス	山行日	05年 8月6日－14日		
山 名	親不知～焼岳				
山行目的	北アルプスの夏山を楽しむ	コースタイム（天候：天気図記号）			

配布先
集会：10
山行L：1
原紙：集会担当者

〈山行報告〉　飲料水を１Ｌ購入する。　大キレットもあまり混んでおらず、要所にはしっかりとしたクサリや梯子、中には鉄板の足場が設置されており、以前よりかなり安全に歩ける。　北穂高岳の登りは、かなりの傾斜であり、浮石も多く慎重に攀じる。　北穂山荘前で１本取り、行動食を少し食べる。　北穂頂上へはけっこう人が登って来ていた。　霧はなかなか晴れず、涸沢や付近の山は見えず残念である。　涸沢岳を経て穂高岳山荘へ着き、山荘のテーブルに一人分のスペースを見つけ休憩する。　奥穂高岳の登りはとても混んでおり、団体さんの通過に待たされる。　沢山の人とすれ違いながら奥穂高岳の頂上に着く。　狭い性もあるが、やはり人が沢山である。　早々に出発すると、がらりと人気が無くなり、岩と岩間の高山植物と自分だけになり気持ちが良い。　岩稜のアップダウンを繰り返し、数パーティーとすれ違う。　天狗ノコルでは、とても明るい内には穂高岳山荘まで行き着けないであろう人に、付き添ってコルから岳沢へ下りるという人（他人）と出会う。　間ノ岳を越え、西穂高岳の頂上に立つ。　感無量であり標柱に抱き付き、この行為をなせる幸せを万物に感謝する。　西穂独標を越えまもなく道幅が広くなり、岩場の緊張感が解かれる。　しばらく下ると西穂高山荘に着く。　手続きしテント場へツエルトを設営し、炊事道具を山荘内のテーブルへ持ち込みくつろぎながらゆっくりと時を過ごす。
８／１４（日）昨夜も雨に降られずホッとする。　標高が低く樹林帯歩きとなる為、露で濡れるのを避け、雨具を着て歩く。　今日も山の上部は雲の中に隠れご対面できない。
樹林とクマザサの緩やかなアップダウンをしばらく繰り返すと焼岳小屋に着く。　これより右折し焼岳へ向う。　すぐに見晴台に着き、正面に焼岳が大きく迫って見える。　雨具を脱ぎゆっくりと歩き出す。　一旦肩へ出て噴煙の傍を巻いて上がるとそこが焼岳の頂上である。　この頃には雲は去り、遥か北方には槍ケ岳が望め、なんとも言えない感動がある。　眼下には上高地の梓川の蛇行が光って見える。　登山道は無いがどうにか焼岳南峰頂に立つ。　かなり探してみたが、これより登山道が無く踏み跡らしき小道も無い。
１０：００乗鞍岳への縦走を断念し、中の湯温泉へ下山を決め、途中までわずかな踏み跡を辿って下降し、中の湯温泉への登山道へ降り立つ。　１１：５０中の湯温泉旅館へ無事下山し、親不知から北アルプス９日間の山歩きに幕をおろす。

〈フリースへ　【焼岳】

確認（リーダー）

作成

亀 05/08/24 山